福岡県　グループホーム　あゆみ　　平成２３年９月９日

平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075700163		
法人名	有限会社　あゆみ		
事業所名	グループホーム　あゆみ		
所在地	福岡県嘉穂郡桂川町大字土師1967－1		
自己評価作成日	平成23年8月18日	評価結果確定日	平成23年9月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホーム周辺には、ゲートボール場、パターゴルフ場、グラウンド、公園といった公共施設が多く地域住民の出入りも多い。住宅地の中に入ると静かで車も少なく、散歩には安全でとても良い環境である。地域社会に出掛ける機会として、町内や自治会の行事に積極的に参加し、住民の方との触れ合いを大切にし、認知症への理解を深めている。入居者の意向を十分に反映し、心身の許す限り積極的に散歩や買い物などの外出を図っている。地域社会に出掛ける機会として季節感のあるレクリエーションを計画し、閉じこもりにならないように努め、季節を肌で感じて頂きながら、ゆっくり楽しく毎日を過ごして頂いている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの名称のあゆみを理念の頭文字にいれた「明るく温かい笑顔で、ゆっくり楽しく一緒に、みんなで大きな家族を目指します」の額が、玄関正面に掲示されている。この額は、理念が日々のケアに具現化されていることに感謝して、家族が寄贈している。毎日の入浴支援、食前・食後の挨拶、入居者・職員の全員が同じ食事をゆったりと摂ること等を、全職員が当たり前と認識している。家族の意見を伺う機会として、毎月のモニタリング表を活用して日頃の状況を報告しているが、運営推進会議の参加者の意見で、今年度家族会が発足している。昨今、入居者の退去に関する話し合いを民生委員、地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員で行ったことが、入居者の生活を地域の理解や協力を受けながら支援していく意識づけになり、今後はさらなる理念の具現化が期待できる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　グループホーム　あゆみ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域全体で大きな家族を目指し、日々、実現に向けて取り組んでいる。	ホーム名称のあゆみを理念の頭文字に組み入れ、全職員で理念を具現化したケアに取り組んでいる。家族が額装した理念を、入居者や家族、来訪者が見やすい玄関正面の壁に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、地域の行事や活動など積極的に参加し、住民の方との交流を深めている。	自治会に加入し、回覧板が回ってくるので地域行事の情報を得易いが、近隣からの情報で出かけることも多い。地域中学校の職場体験を受けたり、学童保育児童が訪問したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会で開催されている認知症への講習会など積極的に参加し，講習をしたり一緒に学ばせて頂いたり、認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際は、活動内容や取り組みについて報告し、その結果をき踏まえて、参加者の方から意見をもらいサービス向上に活かしている	町担当者や地域包括支援センター職員、町社会福祉協議会担当者など、関係機関からの参加で、ホームの困りごとや運営状況を報告している。参加者の意見で始まった地域同業者との交流が継続し、今回は家族会が発足している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見をもらったり、普段から相談したり指導を受けている。	現在は退居しているが、暴言等で他の入居者への影響が懸念される入居者について、地域包括支援センター、ケースワーカー、社協関係者と話し合いをしている。居室状況は随時、地域包括支援センターに連絡している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯のため施錠しているが、日中は、施錠することなく、オープンにしている。身体拘束についても勉強会を開き拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを整備し、毎月のミーティング等で身体拘束について、話し合っている。現在は、無断外出等の入居者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、周知徹底に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者もいるため、勉強会にて知識を習得している。	昨今退去された入居者が県社協の日常生活自立支援事業を活用していた。制度等のパンフレットを整備し、随時家族に説明しているが、家族の会での説明も検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や退所の際には、利用者や家族の意見を聞き、不安がないように十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を聞いたり、運営推進会議、家族会などで意見や要望を聞き運営に反映できるようにしている。	昨今家族会が発足し、恒例となった納涼会でも家族同士の交流を促進するなど、家族が意見を表出する機会を設けている。また、各入居者の生活状況を毎月のモニタリング表で報告し、意見を伺う機会にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や申し送り、日々のケアの中で職員の意見や提案などを聞く機会を設け、運営に反映している。	運営者は食材の買出しの役割を担い、毎朝ホームを訪れ、入居者の顔を見たり声をかけたりするなど、職員とも気軽に意見を交換している。職員の提案で浴槽内で使用する滑り止めマットを購入したり、勤務時間の要望を組み入れ、シフトを作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修の際などは、勤務を調整し参加しやすい環境作りをしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時には、性別や年齢制限などは行っていない。資格取得のための勤務体制には優先的に配慮している。研修などにも積極的に参加できるように、費用の負担を行っている。	広告紙や口コミで職員を募集し、経験や意欲を重視して採用している。雇用対策事業を活用し、職員の資格取得を支援したり、勤務時間内で研修参加を支援している。離職が少なく常勤職員が多く、個々の職員に行事の役割を任せることも多い。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育について勉強会を行い周知徹底を行っている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、契約書に身体的精神的拘束の防止を明記している。今年度の研修計画に人権研修を組み入れている。毎月のミーティングで、日頃のケアを話し合い、入居者の人権を考える機会にしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修には参加をさせスキルアップを図っている。参加した研修内容は、勉強会の際、職員へ内容を報告し、職員同士のスキルアップにつなげている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じ町内のグループホームと交流を持ち、行事の参加の声をかけている。運営推進会議では、各福祉関係者の方に参加して頂き意見をもらっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人と面談し、なじみの関係を作ることにより、不安の解消に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の心配事や不安に思っていること、要望についてを聞き取り、必要な支援が出来るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していた関係機関と情報交換を行い、本人の必要な支援について考え支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、ゆっくり、楽しく一緒に支え合いながら家族を目指し、日々、取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族とはコミニュケーションを多くとり、絆を深め、毎月、ホームでの生活の様子などについて報告書を送っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住んでいた地区の敬老会や行事など、引き続き参加され、以前と同じ人間関係が送れるように支援している。	地域の行事の誘いや、友人の訪問もあり、地区公民館の催しに継続して参加している。また、家族と共に法事や初盆参りに出かけたり、誕生日には外食を楽しんでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士お互いに支え合い、体の不自由な方にはそっと手を貸し、協力されており温かく見守ることがある。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他の施設に入所されたり、入院していても様子を見に行き、今までと変わらない関係が保てるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から思いや希望を聞くことが困難なこともあるが、本人の言動や生活歴、また家族からの情報により検討している。	センター方式のアセスメントシートを活用し、入居者の意向を把握している。また担当職員も把握した情報を書き加えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、他の関係機関よりサービス提供して頂いたり、本人や家族から情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録、申し送り、毎月の勉強会にて、情報の共有に努めている。入居者それぞれの担当職員がより密に関わることで、現状把握ができている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式でアセスメントを実施し、定期的にカンファレンスを開催し、話し合う中で課題やケア方針を決定し、これを元に介護計画を作成している。	毎月のモニタリング結果を家族に送付し、家族の意向を把握している。入居者や家族の意向に沿って、担当者会議を開催し、介護計画を作成している。作成した介護計画は家族等の了承を得ている。	介護認定更新等、家族が訪問する折に担当者会議を開催されてはいかがでしょうか。また、担当者会議録に検討した入居者や家族の意向等の記載をお願したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれの担当者と計画作成者が中心となってセンター方式のアセスメントを実施し、職員全員で情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の際は、入居者の意見を取り入れ行き先を決めている。自治会の行事や町での行事に声が掛かると、積極的に参加している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の行事には積極的に参加し、毎年恒例の文化祭では、作品の出展を楽しみにされている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より受診していた病院の希望の方には、そのまま変更せず受診して頂いている。病院受診は必ず職員が付き添い、生活の様子健康状態を報告し適切な診察が受けられるように支援している	各入居者の看護記録を受診時に持参し、医療との連携を図っている。かかりつけ医や協力医療機関以外の受診は家族が同行している。緊急時やインフルエンザの予防接種には、協力医療機関に往診をお願いしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪問し、毎日の生活の様子、健康状態を報告し、適切な受診、看護が出来るように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻繁に面会へ行き、本人の不安の解消に努め、出来るだけ早期に退院できるように医師、看護師と連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取りに関する指針を説明し、家族の意見を尊重し、主治医と相談しながら今後の方針を決めている。	終末期の具体的な支援や方法を明記した方針を整備し、意向確認書を取り交わしている。看護職員もおり、ターミナルケアについて研修を実施し、現在まで2名を看取っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員間で対応について勉強したり、看護師から指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行っている。	3月に夜間を想定した避難訓練を実施し、10月には日中の避難訓練を予定している。運営者が地元消防団に関わっており、協力を得やすい。飲料水・缶詰・オムツ等を備蓄している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人権について勉強会を行っている	個人情報に関する方針や利用目的を明記した書面を掲示している。プライバシー等を保護するために、各居室入り口に暖簾をかけていたが、耐火用でないと消防署から指導を受け、外している。入居者への声かけ等、職員の対応は穏やかである。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のケアの中で、表情や言動を観察しながら、コミニケーションをとり自己決定ができるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意見を尊重しながら、一人ひとりの生活パターンに合わせた対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理髪店がある方は、希望の店にお連れしている。出来る方は、毎日の洋服選びなどはご自分でしていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ、入居者の意見を取り入れた献立を考えている。準備や盛り付けは一緒に手伝って頂き一緒に作る喜びを感じて頂いている。	入居者の希望でちらし寿司を作ることが多い。全職員が同じメニューを伴食し、声かけや見守りをしている。座位の保持が難しい入居者には肘つきの椅子を活用している。全員で、食前・食後の挨拶をしたり、全員の食事が終わるまでゆったりと過ごしている。入居者のほとんどが完食している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量をチェックし、体調に合わせ食事形態や食事量を変えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い見守り、介助している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや誘導を行っている。	時間毎のトイレ誘導で排泄を支援するなど、個々の状況に応じた支援をしている。毎日、2,000cc以上飲水する視覚障害の入居者は、日中は手引きでトイレ誘導し、夜間は頻尿のため、ポータブルトイレの使用を支援している	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分を多く摂ってもらうように工夫し、日常生活で出来ることは、運動の一環として一緒に手伝って頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴して頂いており、入浴の順番や時間帯などは、本人の希望に合わせ行っている。	浴室前には入浴の順番の名札入れが設置されている。2人体制で入浴を支援する入居者もあり、生活リズムと安眠のためにも入浴は不可欠と捉えて支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由を束縛することなく、自分のペースに合わせ生活して頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会の際、看護師より目的、副作用、用法について説明を受け理解している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夕食に晩酌をされる方や好きなニュース番組を見られる方など、一人ひとりの役割や楽しみを見つけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、出来るだけ散歩に行き、また、レクレーションとして月に1度外出を計画し、出掛ける機会を作っている	住宅地にあり、ホーム前が道路であるが交通量も少なく、散歩等で出かける機会を作っている。また、近くのホームセンターに買い物に出掛けたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設が行っているが、買い物に行くときなどは本人にお金を渡し、支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚の方に手紙を書かれる方や、家族に電話をされる方がいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりが良く、季節の花を飾り、いつも入居者が集まり楽しく過ごされ、台所からは食事を作る臭いや、野菜を切ったりする心地よい音が聞こえている。	入り口の駐車場は黄色い花をつけるバラ科の植物のアーチが今年も花芽を付け、訪問者を迎えてくれた。玄関正面には入居者の華道教授の手による生け花が置かれ、家族から寄贈されたホーム理念を記載した額が飾ってある。共用空間に設置されたソファで寛ぐ入居者も多い。掛けられたレースのカーテンが強い日差しを和らげ、空調も管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分専用のソファーを置き、くつろぐ方や居室で過ごす方など、思い思いの場所で過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や調度品を持参され、自宅と同じような居心地の良い環境、空間作りをしている。	引き戸の居室入口には表札を掲げ、家族の写真、誕生会の写真や色紙を掲示している居室が多い。また、クローゼットのドアが使いにくくなり、窓と同じ青のカーテンを掛けた色彩豊かな居室もあり、居心地の良い部屋づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリヤフリーで手すりを取り付け、居室には自分の居室が分かるよう本人の写真を貼り目印にしている		